

Ⅲ.整備構想の設定

Ⅲ. 整備構想の設定：まちづくり方針と施設展開

阿久根がもっている【の】のまちづくり【要素】

【まちづくり方針】

	<p>「食材のまちから、食のまち」の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> -漁協と農協と商店街が連携した食文化の発信 -イベントを通じた県内外への魚文化の理解と情報発信
	<p>「健康と医療のまちづくり」の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> -阿久根に帰ってこれる老人にやさしいまちづくり -だれもが参加できる健康と医療活動とイベントの開催
	<p>人の活用と人づくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> -婦人会や50歳組の人材と民間サービスの活用 -協働やNPO活動の普及と活性化と人づくりの推進
	<p>海を活かしたまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> -フィッシャーマンズワーフ拠点づくり -ルールをもった海資源の利用と活用連携
	<p>郷土の歴史資源の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> -地域の誇りと愛着を育成する郷土史の拠点づくり -阿久根独自の歴史をもつ祭りや行事の再興
	<p>人が集まる施設づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> -利用しやすいアーケードと駐車場の整備 -街なかの福祉と文化と歴史の交流施設
	<p>街中の回遊性の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> -回遊性を向上させるテーマをもった散策道の整備 -街なか巡回バスの運営
	<p>賑わいを育むイベントの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> -各種イベントの連携開催とイベント申請・PRの一本化 -観光客や子供から高齢者までが交流できる場づくり
	<p>阿久根の顔づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> -阿久根を感じる駅前整備 -観光エリアと地域交流エリアの景観と環境づくり

【エリアと施設展開】

■駅前広場・シンボルロードエリア

- ①駅前広場
- ②駅舎改修
- ③シンボルロード改修

■新港エリア

- ④スポーツ広場
- ⑤交流広場

■散策エリア

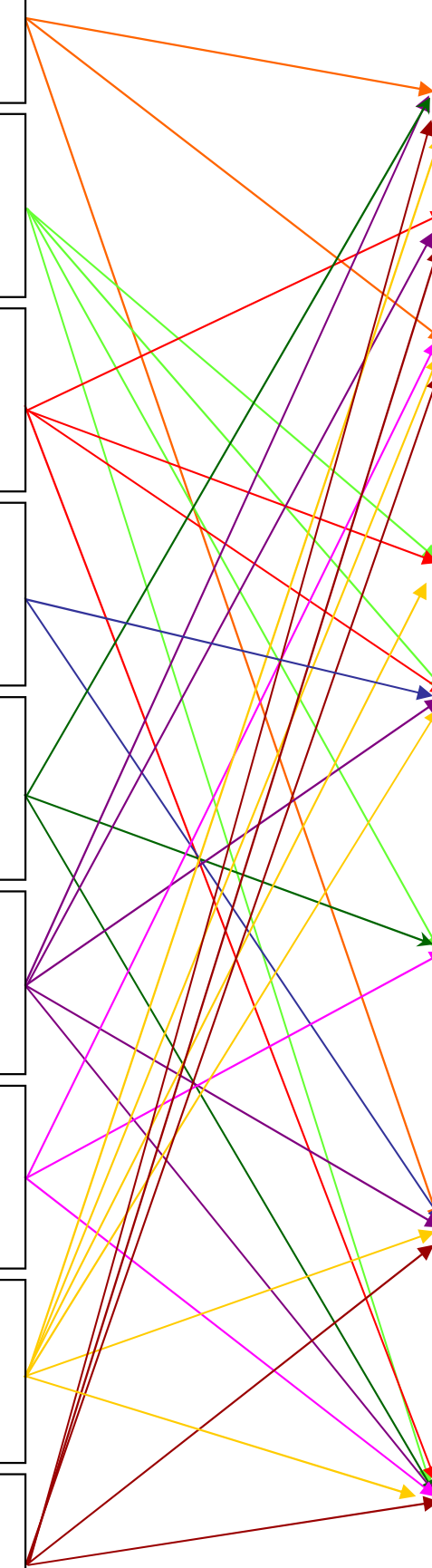
- ⑥健康と歴史の路

■旧港エリア

- ⑦フィッシャーマンズ・ワーフ

■街なか商店街エリア

- ⑧街なか整備



Ⅲ. 整備構想の設定：ゾーニング図(エリア連携図)



○ 拠点エリアと役割
 ●●●●●→ 人の流れ(動線)

【新港エリア】
 : 阿久根旧港(本港)の管理施設や作業場等の漁港施設群及び戸柱公園を含むエリア
 ○旧港の臨海区域を、新たな交流市場や物産館、マリンレジャーなどが集約する新たな観光拠点として再整備を図る。
 ○回遊路の整備により、観光施設や戸柱公園の観光動線の回遊性を高めるとともに、旧港から戸柱公園への緊急避難ルートの確保を図る。

【新港エリア】
 : 阿久根漁港を含む阿久根新港の漁港施設群及び緑地公園、水産加工団地を含むエリア
 ○新港の漁港施設同士の連携や機能強化を図るとともに、旧港との役割分担を推進し、効率化を図る。
 ○生け簀や荷揚場敷地、臨海公園を利用して、釣り・エサやり体験や、健康・スポーツイベントなどの地域交流、地域環境の向上への有効利用を図る。

臨海デッキまでの誘導

新港の海の表情(漁港・生け簀)を楽しみながら散策できる健康回遊路

工業案内や距離標により、散策を誘導

海と駅のシンボリックな景観軸と南北散策ルート分岐拠点

散策のしかけを楽しみながら病院や公園へのスムーズな誘導

散策のしかけを楽しみながら新港へのスムーズな誘導

新港から旧港へ
観光・レジャー機能の移転・集約

旧港から新港へ
漁業作業・管理機能の移転・集約

旧港のリゾート景観と戸柱公園の自然景観を一度に楽しむルート設置

旧港の回遊路確保により、観光地としての表情と魅力を向上

【街なか商店街エリア】
 : 阿久根駅前通り商店街から、高松川沿いの飲食店街・商店街・住宅街を含むエリア
 ○アーケードの改修や、車道塗装などにより、幹線道路の通過交通へのPRや誘導を図る。
 ○ポケットパークの整備や公園整備により、歩いて楽しい地域づくりの形成を図る。

【駅広場・シンボルロードエリア】
 : 阿久根駅周辺(東側敷地から駅舎、駅前広場)から漁協までのシンボルロードを含むエリア
 ○阿久根市の顔として修景を図り、鉄道・バス等の交通拠点としての利便性・集客性を向上させるエリア。駅舎や駅前広場を利用した交流空間拠点を創出し、阿久根の情報発信を行う。
 ○また、駅から阿久根の海に向かうシンボルロードは、阿久根の地域と観光客の交流の場所として、多様な催しや交流ができる拠点の展開を図る。

【散策エリア】
 : 高松川から市民病院まで地域を縦断する旧海岸線沿いの市道を含むエリア
 ○各拠点施設の連携・誘導を図るエリアとして、休憩施設や案内施設、修景整備を図る。
 ○地域住民が日常的に健康促進活動が楽しめる健康遊具や距離標を整備する。
 ○阿久根の生活景観の保全や修景を図り、海岸道路や幹線道路とは対極的な落ち着いた散策路の演出を図る。

景観アピール

通過交通の誘導

安全な散策路の確保

通過交通の誘導

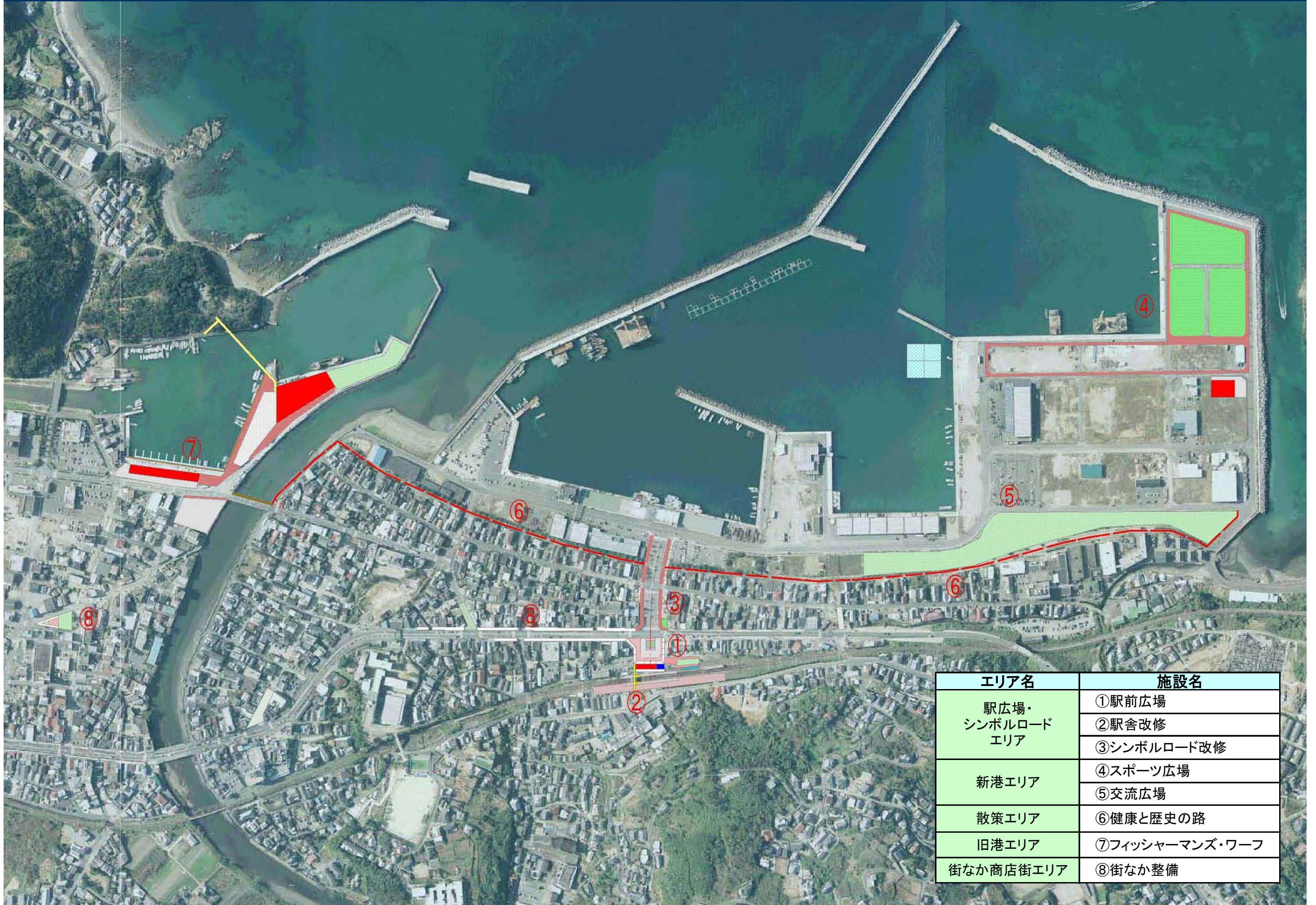
駅広場からシンボルロードの一体的な利用と海への誘導

景観アピール

通過交通の誘導

駅東西の連携により東側から利用促進

Ⅲ. 整備構想の設定：拠点施設配置イメージ図



エリア名	施設名
駅広場・ シンボルロード エリア	①駅前広場
	②駅舎改修
	③シンボルロード改修
新港エリア	④スポーツ広場
	⑤交流広場
散策エリア	⑥健康と歴史の路
旧港エリア	⑦フィッシャーマンズ・ワーフ
街なか商店街エリア	⑧街なか整備